

羽生市議会議員 動かせ羽生！ゼロからの挑戦！

中島 なおき 無所属 38 歳



BLOG「ゼロからの挑戦日記。」ほとんど毎日更新中！

中島なおき |

検索

日々は雑感

今、社会は混迷を極めていきます。経済は停滞し、社会構造は大きな歪みを抱え、政治は信頼を失っています。そんな時代だからこそ、確固たる信念をもった、強いリーダーが必要です。

私はその確固たる信念を持ち「それでも！」と言い切ることができ、芯のある人間でありたい。そして、住民の声なき「声」の代弁者として常に誠実に謙虚かつ、強くありたい。

揺るぎない、確固たる信念は善い政策を作ります。善い政策は政治を変革します。変革した政治は社会を動かし、社会を動かすことは、人々の生活と人々の心より豊かに導くと私は信じています。

皆さんがご存じのとおり、私には、俗にいう地盤も、看板も、かばんもありません。そして、長い経験や処世術もありません。しかし、政治への夢と使命感があります。

政治の世界に自ら飛び込むことを決意したときの気持ちを決して忘れることなく、あきらめることなく、正々堂々と政治に挑戦し続けます。

子ども達に、次代にツケをまわさないために……。

中島 直樹



羽生市内の街頭にて
ハンドマイク1本で勝負



コミュニティ支援の勉強会
元我孫子市長 福嶋氏と



議員有志の政策勉強会にて
東松山市立新明小学校



若手政治家養成塾
テレビの取材を受けました。



就学支援の在り方を視察

羽生市議会議員として、若手政治家養成塾副代表として、地方自治専門誌（公職研自治体 職員研修 11月号）に寄稿しました。前号に続き～第2章～を裏面に掲載しております。～第1章～をご覧になられてない方はご一報ください。バックナンバーをお届けします。

議会は変わる

～議会を変える議員をつくる～

第2期若手政治家養成塾副代表

羽生市議会議員

中島直樹

●第2期若手政治家養成塾(平成22年4月～現在)塾役員構成

代表：井上 航(和光市議)、副代表：中島直樹(羽生市議)、神谷大輔(朝霞市議)、河野芳徳(志木市議)、上田由紀子(文京区議)、島田久仁代(新座市議)

平成22年、年が明けてまもなく、平成23年の統一地方選挙に向け、塾の再始動について打ち合わせが始まる。第1期の若手政治家養成塾は成功だったのか。失敗だったのか。当落結果だけで見れば、塾生個々の事情があつたにせよ、9名の立候補者のうち、2名しか当選者を出せなかったことを考えると、塾のあり方に課題を残したことは否めない。激論の末、第2期の若手政治家養成塾は塾出身の、現在1期目の若手議員が中心となり、第1期の反省点を活かした塾の運営を行っていくことになる。

第2期 若手政治家養成塾設立趣旨

我々、無所属若手地方議員有志は、国政・政党政治への不信感の中、「無所属」で「地方」から日本を変え、未来に誇れる国にするために「地盤・看板・カバン」は無くとも、高い志をもって政治家を目指す若手の人材を募集しています。

若手政治家養成塾では、単に当選だけを目的とせず、政策立案・政策実現能力など、議員に必要とされる様々な「議員力」を養成します。その上で、若いだけでは当選できないという厳しい地方議員選挙を戦い抜く力を、実践などの講

義を通して養成します。

この言葉もまた、役員全員で練りに練った世の中へのメッセージだ。

第1期が9月開講であつたのに対し、第2期は5月開講とした。その理由は、第1期の若手政治家養成塾は、結果として選挙を勝ち抜くノウハウを身につけるための講義が中心になつたこと、また、自分やまちを見つめる時間の少ないまま忙しい日程で、塾生が選挙に突入しなければならなかつた、という反省からである。

第2期若手政治家養成塾は、被選挙権を持たない学生から、経営者、建築士、ゴルフのインストラクター、フリーターといった、塾生10名。日程は8月上旬までの全7回のスケジュールとした。

政治家と選挙は切っても切り離すことは出来ない。しかし、選挙一辺倒では政治家養成の本質を見落としてしまうと塾役員は考え、交流のある大学教授から、現在の地方議会の課題点、今後の地方自治、地方議会の展望などのより専門的な講義や、地方財政の本を執筆している現職首長からの講演も行った。

また、議員として、最低限の知識を身につけるために「議員力検定」の受検にも挑んだ。

講義前半では選挙はなるべく意識をしないようにして、役員を務める現職議員や協力議員らから各自自治体の議会の現状にまつわる講演や塾生自身が自己分析を行うという講義も行った。

とは言っても、前出のように、政治家と選挙は切つても切り離すことは出来ない。選挙で勝たなければ、議員として、また首長として自治体の行財政運営には係われない。後半からは、それまで抑えていたものを吐き出すかのように選挙を意識した講義にシフトさせた。

公職選挙法を学びながら、有権者の目を引くチラシの作り方、選挙ポスターの重要性、演説(言葉)の重要性を伝えた。口先だけではない、自らが選挙や後の議員活動、政治活動で実践している塾役員による講義なので、説得力はあつたであろう。また、駅頭に立ち、実際にチラシ配りを実験する機会も作つた。講義毎に塾生から1分間、あるいは3分間スピーチという課題も与えた。

選挙の中でも、特に市区町村議会議員選挙では地区対抗の選挙となることがそのほとんどである。昔からの土地の名士が地区単位で推薦され、その地区の人々を巻き込みながら選挙を戦うのが常道とされる。そこに、「地盤、看板、カバンなし」で誰からも依頼される事なく、自らの意志で立ち上がるのだから、事態は穏やかではない。だからこそ、従来型の選挙に対抗するには、政治に対する「熱意」と「言葉」は最大最強の武器であるということをも再塾生に伝えた。そのことを肌で感じてもらう機会、それこそが最終講義で行つた「模擬選挙」である。

最終章へ続く…。